

輪換畑における小麦高蛋白化のための生育診断指標

【要約】 小麦農林61号の生育診断指標として窒素吸收量、葉身窒素濃度、草丈×基数×葉色値および葉色が利用できる。高収量な小麦ほど原粒蛋白含量は高く、輪換畑における蛋白含量8.5%以上の中麦の適正窒素吸收量は、幼穂形成期が4.0 g/m²、減数分裂期が5.0 g/m²である。

三重県農業技術センター・栽培部・作物栽培担当 連絡先 05984-2-6359

部会名	水田・畑作物	専門	栽培	対象	麦類	分類	指導
-----	--------	----	----	----	----	----	----

【背景・ねらい】

三重県の小麦は96%が輪換畑で栽培され、品種は100%農林61号である。収量水準は県平均27.8 kg/aと低く、また品質面では原粒蛋白含量が県平均8.3%と低く早急な改善が求められている。そこで品質改善と収量向上を図るために、生育期の栄養状態と蛋白含量および収量との関係を検討し、高蛋白小麦安定生産のための生育診断指標を策定した。

【成果の内容・特徴】

- ① 高収量な小麦ほど原粒蛋白含量は高く、蛋白含量8.5%以上の中麦の収量および収量構成要素の目標値は、収量4.2~4.8 kg/a、穗数450~500本/m²、1穗粒数24~26粒、千粒重38~39 gである(図1、表1)。
- ② 生育期の窒素栄養状態は、原粒蛋白含量および収量と相関高く、窒素吸收量および葉身窒素濃度は診断指標として利用できる(図3)。
- ③ 草丈×m²当り基数×葉色値は窒素吸收量と正の相関が高く、次式から窒素吸收量が推定できる。また生育診断の指標として利用できる(図2)。

$$Y = -0.091 + 4.838 \times 10^{-6} X \quad r = 0.987 **$$

Y: 窒素吸收量(g/m²) X: 草丈×m²当り基数×葉色値(cm·本·SPAD/m²)

- ④ 原粒蛋白含量8.5%以上、収量水準4.2~4.8 kg/aの小麦の時期別生育診断指標は表1のとおりであり、適正窒素吸收量は幼穂形成期(出穂前50~55日)が4.0 g/m²、減数分裂期(出穂前20~15日)が5.0 g/m²である(表1)。

【成果の活用面・留意点】

三重県の灰色低地土輪換畑における小麦農林61号の生育診断指標として利用できる。

【具体的データ】

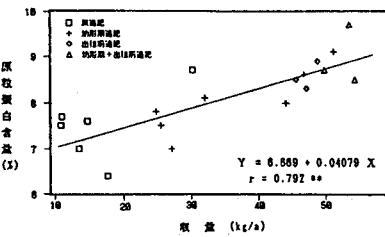


図1 収量と原粒蛋白含量の関係(平成3、4年)

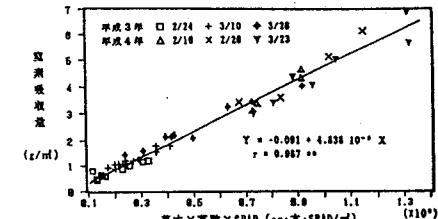


図2 草丈×基数×SPAD値と窒素吸収量の関係
(平成3、4年)

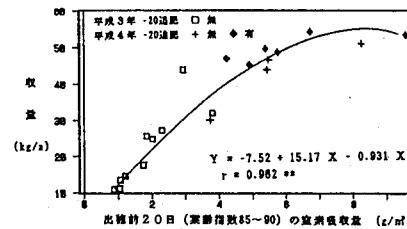
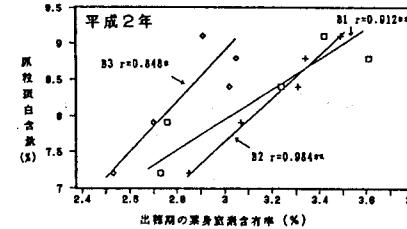


図3 生育時期別の窒素栄養状態と収量、原粒蛋白含量の関係(平成2、3、4年)

表1 小麦農林61号の品質・収量目標

項目	原粒蛋白含量 (%)	収量 (kg/a)	総数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	千粒重 (g)
目標値	8.5以上	42~48	450~500	24~26	38~39

表2 小麦農林61号の生育時期別の生育診断指標

診断項目	診断指標(上段:適正値 下段:倒伏限界*)		出穂期
	[葉身葉濃度] 60~65 [茎葉比率] 60~65日	[幼穂期] 70(幼穂期) 50~55日	
窒素吸収量	3.5 (g/m ²)	4.0 4.7 (g/m ²)	4.3 5.0 6.2 7.0
正葉葉身窒素濃度 (%)			3.2以上
草丈×基数×葉色 (cm · node · SPAD/m ²)	0.75×10 ⁶ 1.0×10 ⁶	0.85×10 ⁶ 1.2×10 ⁶	0.9×10 ⁶ 1.3×10 ⁶
最上位完全開葉	42以上	38以上	37以上
葉色(SPAD-502測定)			36以上
* 倒伏限界(0~5)	3以下		33以上

【その他】

研究課題名：小麦の高蛋白化技術の開発
予算区分：特定研究(地域水田農業)
研究期間：平成5年度(平成2年～平成4年)
研究担当者：北野順一、生杉佳弘